

第7回学校関係者評価委員会議事録

開催日：平成28年9月28日18時30分～20時30分

開催場所：専門学校 社会医学技術学院 大会議室

出席委員：

小川 精二（地域・元東京農工大学事務長）

長浜美智穂（実習地・社会福祉法人康会 久我山病院リハビリテーション科科长・理学療法士）

花宮 豊（外来講師・医療法人欣助会 吉祥寺病院・作業療法士）

武市 裕貴（就職先・一般財団法人天誠会あんず苑 小金井あんず苑副施設長・理学療法士）

西村 和美（高等学校・東京都立昭和高等学校進路指導担当）

事務局出席者

山田千鶴子（専）社会医学技術学院 学院長

遠藤 敏（専）社会医学技術学院 副学院長

清水 茂（専）社会医学技術学院 事務長

中村伴子（専）社会医学技術学院 作業療法学科長

帯刀隆之（専）社会医学技術学院 理学療法学科長

藤本英明（専）社会医学技術学院 理学療法学科教員 書記

欠席委員

本木典子（自治体・小金井市保健福祉部介護福祉課包括支援係長）

久富祥生（保護者・株式会社ファンコーポレーション代表）

大関健一郎（卒業生・帝京科学大学医療科学部作業療法学科・作業療法士）

【議事録】

1. 学院長挨拶（山田）

学院として初めて中期事業計画書を作成したことを中心に挨拶。

2. 自己評価委員長挨拶（清水）

挨拶および配布資料確認がなされた。新しいOT学科長として中村教員が紹介された。

3. 議長の選任（清水）

武市委員に議長を依頼し承諾。以下議事次第に従い議事が進行された。

4. 前回議事録の確認（署名人：長浜・武市委員）

議事録の一部修正について確認された。

5. 学院の概況報告（清水）

平成27年度の学院の概況が報告された。在籍学生数、作業療法学科で定員を下回っている。国家試験結果は、理学療法学科で新卒者の全国平均を下回った。また決算報告がなされ財務状況は良好であることが報告された。

質疑応答

作業療法士の養成校数は減っているのか？（長浜）

大学が増加している。専門学校数に著変はない。大学志向が強くなっている。（中村）

完全な新設は少なく、専門学校から昇格するが多い。（山田）

求人数は非常に多い（中村）

なぜ求人数が多いのか？（長浜）

多様な就職先が増えてきたのが要因。自立支援に関連する分野の増員、特に今まで少なかった回復期などから多くの求人がきている（中村）

求人数がそれだけ多いのになぜ学校に来ないのか疑問（武市）

一般的な知名度や仕事内容などが低いためだと思う。各県士会でPRをすすめている（中村）

高校生にはPTとOTとの違いの理解は難しい。見学などに行ってもよくわかる。職業は、ドラマなどで理解することも多いようだ。またスポーツをやっているとPT志望となる（西村）

PTに不合格した受験生にOTを勧めていたが、全体の受験者数が減少し、そのようなことができなくなったことも考えられるという話も数年前にあった（山田）

在籍学生数があまり大きく変化していない。他大学では留年したり退学している数も多い話を聞く（武市）

大きくは変化していないが、進路に迷いがあるものが退学しているものもある（帯刀）

ニートのような学生を夜学に入学させていることもあるようだが、結局は退学したり、国試不合格になったりしているようだ（武市）

6. 平成27年度自己評価報告書についての報告（清水）

報告書の結果及び評価の基準について説明がなされた。

質疑応答

2をつけた項目はあるのか（武市）

サークル活動、国際交流などが2となっている（清水）

今後、看護・介護職の国際的な受け入れ（留学生）はするのか（武市）

現在、都内では1名しか実績がないが今後は増加するかもしれない（清水）

大学は留学生が多いが、今後どのような流れになるのか（武市）

東京農工大は工学系だったので中国や台湾などからの留学生の受け入れから始まり、その拡大は容易だったが、ここのように特殊な専門学校だと難しいと考える。試験制度の問題もあり母国語でも難しいので、留学生は難しいと考える。（小川）

この地域の大学では外国人の受け入れも多いので、受け入れる土壌は良いと思う（武市）

今後、東南アジアは、日本の高齢化での対応を学んでいくかもしれない（武市）

研修を受けられないのか、という申し出はある。現場でやっていることを見たいという希望があるので学院だけで対応できるものでないのを保留している（山田）

2025年社会保障制度の変化や2045年など高齢者人口が減少することで就職口がなくなることが予想される。海外に就職していくことも出てくるのではないかと（武市）

7. 卒業生アンケート（清水）

昨年と同様卒業後3年目の卒業生115名とその就職先に対しアンケートを行った。回答率を上げるために紙ではなくインターネットで回答いただくこととしたが、回答は卒業生が26件、就職先が51件と低く、回答期限を9月末まで延長したため集計結果は後日郵送でお伝えする。次年度はインターネットと紙両方で回答できるようにすることなどを考えていることが報告された。

8. 中期事業計画

(1) 理念 (2) 期限 H32年度までの5年間 (3) 基本方針 (4) 重点目標および重要施策 (5) 国家試験対策アクションプラン (6) 入学応募者対策アクションプランについて概要が説明された。

9、国家試験対策アクションプランについて（山田）

昨年度の全国平均を下回ったことを受けて、最終学年担任に担っていた対策を学校組織として本格的に文章化・データ化して現在進行形で取り組んでいる。既卒者も含めて実施していることが報告された。

質疑応答

合格率が低かった理由はあるのか（長浜）

様々な要因はあるが、学力不足者への対応が難しかった。夜間部の経済的な問題があり学習時間不足したものもいた（帯刀）

過去の夜間部学生は自分でやるという感じがあったが、世代的な違いはあるのか（長浜）

過去のようにほっといてもやってくれるようにはならない。ガイドは必要。模擬試験も多く実施している（帯刀）

昼間部は人数増員し学力不足の層も入学するようになり、その対応がまだ不十分（帯刀）

今までも取り組んできたが、経験的にやっていたことを学内の共通認識としてまとめよう取り組み始めた。

（山田）

学校によっては相当の低学力者が入学していると聞く（武市）

国家試験不合格者の入学試験成績は低かったのか（小川）

学科試験を実施しない区分もあるので、明確にわからない部分がある（帯刀）

在籍していた私立大学の入学者のレベル差があまりに大きく、授業や補習のレベルも難しい。優秀な学生だけ入れれば良いがそれでは経営できない（小川）

10~15年前と比較して、どんどん入学決定者が早くに決まるようになってきている。AO入試など様々な入試形態を行うようになってきていることも要因（清水）

杏林大学、東京薬科大学、法政大学などは東進ハイスクールのeラーニングなど入学前課題をやっている所のほうがいい大学なのではないかという認識が高校側にある。以前は合格後に有料なのかという批判はあったが、大学側の取り組み（どこの教材が良いのかを精査したり大学教員が添削している）も分かり認識が変化している。学生数が減っているので偏差値50は過去の50と違うと思ったほうが良い（西村）

高校生AO入試を開始したOT学科では東進ハイスクールのeラーニングを導入した（山田）

10、入学応募者対策アクションプラン（遠藤）

（1）学年別のガイダンス（職業、学校を知ってもらう）（2）イベント参加者へのフォロー（3）保護者向けのガイダンスへの参加（4）入学実績のある大学短大へのネットワーク作り（5）卒業生への働きかけ（6）夜間部のメリットの強調（7）人材育成制度としての働きかけなどのプランを行うことが説明された。

active learning で有名な京都大学溝呂木先生がメーリングリストを利用して、情報共有の取り組みをしているのが学校関係者に広がっているのでそういうものなど利用できないものか。（西村）

給付型奨学金制度を設ける施設の増加によりOT学科の受験生は増えている（山田）

合格した時の手続き資金に使用できるように給付型奨学金を出す形式の大学が増えている。東洋公衆衛生学院で放射線技師や検査技師など国家資格取得者に他大学3年や4年生に編入させる枠を持っている。大学にもメリットがある方法（西村）

大学化は考えているのか？（武市）

4年生大学になるには土地が不足している。短大か文科省で検討中の職業専門大学を目指したいが、いずれも学校法人化が必要となる（清水）

母子家庭をターゲットにすることを以前検討していたようだが（武市）

小金井市では夜間保育を実施している場所がないので、金額もかかるので大変そうである（山田）

初年度の納付金は？（武市）

入学時に必要な額は夜間部が 99 万円、昼間部が 126 万円。初年度納付金を安くした（清水）
半期ずつ分納にしているものをもう少し細かく分けられるかを検討している（山田）

1 1、学校関係者評価報告書の作成要領について（清水）

今年末までに提出して頂き、事務局でまとめたものを次回（3月開催予定）で検討する。1月に次回開催案内を送付する予定。

1 2、その他

各委員より感想を頂いた。

応募の減少はとてもショックを受けた。学校は大変だと思う。現在、精神科 OT の働く領域は埋まっているので、今後職域拡大が検討課題。（花宮）

精神障害を有する就労者に対する企業のフォローや発達障害に対しても対応できるのでは（武市）


発達障害に対する研修会增加している。参加必須のものもある（西村）

子供達の力が落ちているのかなと思う。競争がなくなってきた。さらに携帯をずっと持っていおり、手放せないような状態。確実に以前とは違う世代だと思う（西村）

親身・誠意を持って話しをする。信頼されることが大切。本当のことを言わないといけない時にはいうべきである（小川）

平成 28 年 9 月 28 日

議事録署名人

武市裕香 

議事録署名人

花宮豊 